

迎春



はぐるま

たくましい

「はぐるま」の

仲間たちへ

理事長

澤 俊男

おめでとうございます。

仲間たち、お正月はどのようなに過ごしましたか。

それぞれに楽しく、心に残ったものとして送ったことと思います。

今年も昨年同様 新春

マラソン大会への参加を

皮切りとして、「はぐるま」

の活動が始まりますね。

私も体調を整えながらできるだけ仲間たち

といろいろな活動を共にしながら、仲間たち

と、もっともっと強く結びついていくよう、

努力したいと思っています。

昨年は予期しなかった新型インフルエンザ

にかかった仲間たちが何人かいましたね。

でも、それ程のことなく、無事に乗り切れた

ことは、ほんとうに良かったと思えました。

これも各ホームなどで、きちんとした計画的

な体力づくりがあったからですね。

今年も自分の体力等に見合った、基礎体力

づくりから始めて、心身共に更に強い身体を

作って欲しいものです。

また地域の人々とのかわりを、より

いっそう深めるためにも行っているバザーなど

への参加や、訪問販売活動、その他の地域活

動をとおしての交流は、言うまでもなく、

互いに理解しあい、協力しあっていく上でも、とても大切ですね。

「はぐるま」でよくいわれていることですが、地域に私たちがかわっていくことも大切だけれども、むしろ私たちに地域の人々に、もっとかかわってもらうように、努力することが、それ以上に大切なんだということ、全くそのとおりです。しかし、そのための努力・活動は決して簡単な、楽なことではないと思います。でも、私たち「はぐるま」の活動目標としてやらなくてはならないことですね。

そしてみんな、昨年以上の力を出しながらこれらの活動をとおしての仲間たち互いの助言・協力・励ましなどは更に、自分自身を高めることにもつながるのではないかと思えます。仲間たち!! 昨年の反省をふまえ、

一段と高い目標をかかげ、挑戦しよう。

No.47号

2010年1月12日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

インフルエンザ特集

感染力が強いとは聞いていましたが、最初の一名がかかってから「あっ!!」という間に、感染が広がってしまいました。日本に感染者が出た頃から、インフルエンザ対策はしてきましたが、予想を超える感染の速さに、防ぎようがありませんでした。この事態から、集団感染を最小限に食い止める方法、連絡体制、職員体制、家庭との連携等、多くのことが課題として残りました。

『声なき声』

(訴えない症状をつかむ難しさ)

看護師 江口 成子

今月十三日にインフルエンザの診断を受けた方が2人出てから風邪症状を含め毎日2人のペースで感染が確認されてきました。

インフルエンザの症状としては一番に高熱が上がります。インフルエンザ対策として、11月より毎日熱を計ってきました。このデータからわかったことは、利用者さんの多くは平熱36℃台を切る

ということでした。36℃の後半ですでに平熱より2℃も上昇していることになりました。

熱の上昇に伴い体のだるさや頭痛、食欲不振いろいろな形で、ばい菌が体に入り、増殖を始めているサインを出し始めます。人間はこのような体からのサインを、受け取り活動をやめ体を休めるという行動をとるのですが、今回感染したほとんどの方は、なかなかこのサインを出すことで出来ませんでした。

多くは定時に熱を測りそのことで熱があることが分かり受診するという経過でした。熱を測らなければそのまま熱が出ていることも分からず作業を続けていたと思います。

本来熱が上昇する際に出る食欲がない、だるいなどのサインは全く出ずいつも通り食事は完食し機嫌よく行動していました。

中には高熱で赤い顔をしていても、こだわりの行動を止められずにいた方もおり見ていて心が痛くなってきました。食事量や機嫌だけでは回復の目安にはならないことが、今回のことでははっきりしました。

これだけインフルエンザに感染した方がいても1人

も重篤な症状にならずにすんだのは、体温上昇という数字で客観的に見られる手がかりがあり、それをもとに病院を早めに受診したためだと思えます。

熱が下がって数日間は体の中に菌は残りますし、体は菌と戦って疲れ切っています。一度風邪をひくと数週間も咳やだるさが抜けないという経験をみなさんお持ちだと思えます。それは弱った体に他の菌がはいりやすいため、通常では感染しない菌でも安々と侵入を許してしまうためだといわれています。こういう感染を日和見感染(ひよみかんせん)と言います。

嘔吐下痢が続く消化器系に強く症状が出る風邪も流行しています。仲間には幸いまだ見られませんが、インフルエンザや細菌性の風邪などが完治して数日後、この風邪に感染している方もいます。今後也十分気を付けないけないと思えます。

どこか変、いつもと違う、という感覚のようなものと体温、脈、顔色など客観的なものをうまく使い仲間の変化をいち早くつかめていければと思います。

ホームの状況

作業所は、1-4の感染者が出ると、閉鎖になり、日中はホームで過ごすか、自宅待機となります。今回は2週間の間に感染が広まり、3箇所の作業所が閉鎖になりました。

その為ホームでは、病気の方を看護するための医療的ケア、感染拡大を防ぐための隔離対策、特別食の手配という重要な役割が生じました。

その他、基礎疾患を持つ方、感染予防のための自宅待機の要請等、各家庭の実情に合わせた対応をしていかなければなりません。

心配されていた職員への感染もあり、日中ホームで仲間を見るための、職員体制に影響が出てしまいました。

今回のことから、大きな災害時も、最終的に帰ってくる場所が、ホームである仲間が多くいる事が予測され、『命や生活を守る』重大な役割がホームにあることを再認識いたしました。



年末年始のホーム活動

三百六十五日型みどりホームの場合

新型インフルエンザ対応が及ぼした影響で作業所閉鎖。出勤できない仲間や休日が続く仲間達に十七日間という未だかつて経験していない過ごし方をどう過ごすかは今後のホームでのサービス提供や支援の在り方に利用者・職員にとって大変勉強になり、生活の場を担う施設側の力量も問われました。

はぐるまの仲間達が培ってきた力や身に付けている習慣を見直す作業を仲間達と職員と一緒に計画を立てるところから始めました。

基本は自分たちで楽しむには何をしなければならぬかを問いかけ、各人が持っている力を引き出し発揮させ、何でも出来る段階に来ていることを仲間から学んだ長い休暇でした。

具体的には、温泉・ボーリング・初詣・プール等仲間達が日頃やってみたい事を取り上げる。それに伴う飲食物摂取での健康管理、外食をなるべく避けるための調理実習、買い物、運動など今まで実践してきたことの集大成の具現化です。午前中は朝の会・買い物・運動・調理実習。昼食後は行動

計画の下見や練習。目的達成に向けて繰り返し行動は、皆さん身に付けていて、見事に長期休日をホームで過ごすことが出来ました。

記《みどりホーム責任者 中山》

第35回 理事会 評議会 報告

第一号議案

補正予算

【平成21年度補正予算 概況 報告】

記「法人本部 中川」

収入においては、自立支援サービス料収入計

(相談支援受託費含む)を、一次予算比、

2,700万円増。支出においては、人件費関連で

の向上施策見送りにより、一次予算比

700万円減としました。これらを主な要素と

して、内部留保繰入計(次年度繰越)が、一次予

算比3,300万円増の6,200万円としました

また収支差額は発生しませんが、自立支援特

例事業(満額補助金対象)として、はぐるま共同

作業所の生産スペース拡大改修工事・営舎トイ

レ改修・みどりホーム防災設備 計330万円を

収支双方に追加計上しました。

概況として法人運営全体の指標は、好転してはいますが、ホーム利用者負担金(ホーム費)の運用は、消防指導による防災カーテンの設置

(3ヶ所75万)等により、次年度繰越(積立金含む)が減少する見通しです。利用料については、先般、家賃負担を中心にアップさせて頂いたところですので、修繕・設備等高額なものについては、極力、公的・民間事業助成金を活用し、不足部分は法人運営費を充当して行く予定です。

また、授産(生産)活動については、一次予算編成時から工賃確保を前提にしたチャレンジ予算(売上アップ必至)とし今回も変更していませんが、インフルエンザ流行に伴う販売活動中断の影響もあり、売上向上策として企業等からの請負業務も取り込んでいますが、大変厳しい状況です。授産売上から原材料・経費を除いた金額が「工賃」である大原則は維持しますが、状況により、授産経費からの仲間全体活動(登山・マラソン大会への繰入(55万円)は行わず、法人事業費勘定とする等の策を講じていきます。

《次年度繰越金 6,200万円の

考え方について》

先に行われた評議員会・理事会にて、ホーム利用者負担会計・人件費等待遇向上等への積極投入のご意見もありましたが、はぐるまの経営理念でもある「仲間の生涯保障」を現実とするには、「確固とした経営基盤の確立」が法人設立時からの最重要課題と認識しています。これを財務面から見ると、まず最低2ヶ月、一般的には3ヶ月の運用資金(2か月分↓2,600万円 3ヶ月↓3,900万円)が必要になります。これに加えて、資産評価額面1億円程度(土地・建物等含む)を最低でも保有するのが一般的です。これらを考えると、運用資金は、何とか確保できてきたが、資産評価額面は基本金1,000円と新規取得した土地建物5,000万円 計6,000万円と、まだ脆弱です。このような状況の中で、平成15年以来、地域作業所モデル給与体系から見直しを保留したままの常勤職員給与体系の人事制度と同期した見直しと、今後さらに重要性を増すケアホームを主とした職員配置(質・両の拡大も急務で

あり、来年度から段階的实施を検討しています。

これらは、単年度での支出増ではなく、翌年度以降もベースとなるものですので、最低5年〜7年を見通し、資金確保をする必要があります。

よつて以上を考慮すると「まだまだ資金面では不足」の状況と考えています。

第二号議案

工房とホームの移転計画

黒川に土地を有効利用したい方がいるという情報がありました。尚且つ、ホーム2箇所・作業所・農地の三セットで賃貸できそうだという、好条件でしたので、情報源の三井ホームさんを仲介として話を進めていきました。その間、地主さんとの面談や、黒川地域で行われているイベントに参加したり、農業関係者にお話を聞いたり、地域の情報集め、交流をする等、移転が出来るように活動をしてきました。

しかし、最終的に地主さんの出した結論は、「福祉施設」に賃貸するのは難しい状況なので、中止にしたいという残念な結果でした。

この事業は推進委員会が主体となつて進めてきましたが、三井ホームの仲介を通しての交渉で、主体的な活動が出来ず、地主さんへの理解を十分に深めるに至らなかつた、との反省が残りました。

報告に対する質疑応答(一部)

Q 移転の話は今回で2回目、どちらもだめになつているので、もっと確実になつてから提案したほうが良いのではないのでしょうか。

A 今回の移転は、作業所・ホーム2カ所と大がかりな移転のため、土地・物件について理事会で十分吟味する過程を、大切にしました。また、将来にわたつて農業ができる環境を保障していくために、絶好の条件であつたことと、「はぐるまの将来ビジョン」に大きく影響することでもありましたので、理事会にて提案させていただきました。

《所見》…今回のことで、はぐるまが新たに農地を獲得するには、「行政・農協・市民運動」などを巻き込んだ働きかけが、必要不可欠であることがわかりました。困難は予想されますが、農業の

活性化を真剣に考えている方々と、「はぐるまの仲間」が共に農業を目指すことの意義はとても大きいものと感じています。

Q 今回は「黒川地区」が対象でしたが、今後も黒川にこだわつて、土地を探すのですか。

A 黒川は、農業振興地域で、農業を行うには良い土地柄ですが、農地を借りるのは、かなり困難な地域です。そのため、この地域に限らず、「生涯農業ができる」という条件が整えば、話を進めていきたいと思ひます。

他の地域でもよいかは、理事会において確認を取つて下さい。

○理事会で協議の結果、事業推進委員会が中心になり、理事長と確認を取りながら、適した条件であれば、進めていく。そして理事会で協議していくこととなりました。

《所見》…大いなる期待を持つて、事業の展開を見守つてきた関係者の落胆は良くわかります。今回

の移転でホームの部屋数が増えることで入所ができる仲間がいましたので、その落胆は察するところ。今後も良い方向に進んでいけるよう、関係者一同努力をしていきます。

第二号議案 後援会報告

22年2月12日(金)に実施します、「ふるさとをください」上映会についての報告と協力依頼がありました。

会場の多摩市民館 大ホールは収容人数900人ですので、3回上映で2,700人が入れます。

これからチケットを販売いたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

この映画は精神障害を持った仲間たちの、作業所を創る過程でおこつた、様々な葛藤、地域の問題など、なかなか理解の深まらない精神障害者の実態を描いています。

「障害のある人たちが、生まれ育つた地域で、普通に、当たり前にくらしていく」のために、働き暮らす「場」、支援する「仕組みや人」、障害があつてもそのまま受け入れる「地域」づくりを

進めていくうえで、厳しい現実があるのは事実です。偏見による、見えないバリアも根深いものがあります。それでも現実を直視し、よりよい所に行こうとする努力を、怠ってはいけません。そのようなことを、地域の皆さんと考える機会となればよいと思います。

皆様の御来場を心よりお待ちしております。

研修報告

ホームの食事を担当している職員の研修を報告します。昨年は「ヘルシーでおいしい食事」を

テーマに各ホームの、お勧めメニューを出し合い、

一冊の「はぐるまレシピ」本を作りました。

今年「弁当」の研修を行っています。はぐるまのホーム生は毎日ホーム弁当を持って、作業所に出勤しています。新施設が出来た折には、厨房設備を完備し、給食が提供できると思います。

その時に長年食事を作ってきた経験が生かされるよう、「はぐるま弁当」のまとめをしています。

カロリー・彩・バランスに加え、一食にかかる費用や弁当箱の形状等、課題は盛りだくさんです。

食材にもこだわっていききたいので、はぐるま工房で栽培している無農薬野菜は欠かせない物になることでしょう。

活動場所は、リフォームしたキッチンなので、沢山の食数が出来ません。その為、主に作業所の職員が試食し、「味付け」「適正量」「メニュー」についての評価をしていきます。現在まで2回の試食をしました。今後は、「はぐるまレシピ」に弁当シリーズが加わるよう、まとめをしていきます。



自慢のはぐるま弁当

調理風景

お知らせ

職員の移動・採用状況 《敬称略》

・ 福田 真 はぐるま工房 ↓ 本部
・ 瀧島 亮 はぐるま共同作業所

臨時採用(2月より本採用見込み)

・ 石澤 幸樹 はぐるま工房本採用

十二月より、はぐるま工房職員として勤務しております。まだ全員の仲間の顔と名前が一致せず、電話の受け答えなどに、戸惑うことが沢山ありますが、少しずつ慣れていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



訃報

林 万裕美さんのお母様

林 万里子様 心筋梗塞のため 一月六日
逝去されました。

ここに謹んで生前の御厚誼に深謝し、
お知らせ申し上げます。